



兵肢協会報

発行所

〒651-0062
神戸市中央区坂口通2丁目1-1
兵庫県福祉センター内

兵庫県肢体不自由児者協会

TEL 078-241-9907
FAX 078-241-9908
E-mail: hyoshikyo@nifty.com
URL: http://hyoshikyo.d.doco.jp

療育キャンプの話を楽しそうにされていた

坂田先生、原田先生を思い出して！



一般財団法人
兵庫県肢体不自由児者協会 副理事長
司馬良一

筆者は兵庫県肢体不自由児者協会の推薦で、昨年11月、兵庫県知事より「福祉功労者」、12月、厚生労働大臣より「更生援護功労者」の表彰をいただきました。当協会の仕事（会報の左下に記載）が評価されたのだと思います。当協会の歴代会長（理事長、役員、職員並びに多くの関係者に心より感謝申し上げます）。

当協会の源流を思い返してみたいと思います。大正の終わりに、ご存じのように、東京大学整形外科教授の高木憲次先生が「療育」ということばを使い、肢体不自由児の自立を支援する重要性を説かれました。具体的には、医療面では、昭和17年東京で整肢療護園を設立され、社会面では昭和23年日本肢体不自由児協会（当協会の全国組織）を設立され、今でいう児童福祉の先駆けとなりました。この「療育」という考えが全都道府県に広がり、兵庫県では、病院と福祉施設の機能を持つ肢体不自由児施設「のじぎく園（後ののじぎく療育センター）」が開園し、当時の神戸医科大学（現神戸大学）整形外科教授の柏木大治先生が初代園長に着かれました。兼務であったため、副園長の坂田政泰先生が実務をされていきました（後の園長）。同時に肢体不自由養護学校が併設され、学校に行きながら医療を受けることができる体制が出来上がりました。その翌年、昭和34年、福祉面でも兵庫県肢体不自由児協会（当協会）が設立され、初代会長に内科医の天児民博先生が着かれました。高木先生は整形外科学会などを通じて「療育」に対する協力を要請され、全国の大学の整形外科は担当分野の一つとして肢体不自由児施設の支援をするようになりました。当協会の初代会長の天児民博先生の弟さんの天児民和先生は九州大学の整形外科教授であり、その弟弟子の柏木先生（当協会第3代会長）が教授として九州から神戸に赴任されたことで、当協会と神戸大学整形外科とは強いつ

ながりができたといえます。天児会長は内科医であったことから整形外科医の原田義昭先生（後ののじぎく療育センター副院長）が強い助手となっておりました。

筆者は神戸大学整形外科におりましたので、昭和40～50年代の当協会の「療育」の様子をはたから見せてもらっていました。坂田先生、原田先生が力を入れていたのは療育キャンプでありました。キャンプでは人ひとりの身体的、知的発達の状態や日常生活の中での保護者とかかわる状態を細かく観察できる、また、保護者、学校職員、ボランティアたちと話ができるなど多くの利点があり、さらに歩進めて巡回療育事業にもつながって行けたといっておられました。坂田先生も、原田先生もよくキャンプの話をしていました。楽しそうに。でも、坂田先生は当協会の第4代副会長の在任中に亡くなられ、原田先生は天児会長が亡くなられるのを見届けられ、当協会から手を引いております。その後当協会と整形外科とのつながりが薄れております。キャンプに対する当協会の支援は続いているものの、実態は把握できておりません。鄭理事長がいつかの会報で、当協会の対象者が限られてきているとの指摘がありました。キャンプに限らず、肢体不自由児者との接点を見つけることが大事であると思います。そして当事者、保護者、学校関係者、福祉・医療関係者、有識者、協力者など当協会理事・評議員で今の時代、当協会のさらなる発展のために、何が求められているのか知恵を出していただきたいものです。

肢体不自由児者協会は

- 一 肢体不自由児者の愛護思想の普及
- 二 肢体不自由児者の療育相談及び更生相談
- 三 肢体不自由児者の教育の援助
- 四 肢体不自由児者の激励慰安
- 五 肢体不自由児者に関する刊行物等の発行及び斡旋
- 六 肢体不自由児者の福祉に関する調査及び研究
- 七 日本肢体不自由児協会及び関係諸団体との連絡などを行っています。